

かけはし

しまだしょう
島田小
こ しょうしん
子ども通信

発行日：2020年5月18日
発行：校長 竹本和哉
発行No.7

むかしの時間と時刻

みなさんは、自分が生まれた年の、「干支」は、何ですか？知っていますか？
実は、むかしの時間と時刻は、「干支」と関係があります。

まずは、クイズから

- ①お昼の12時のことを別のいい方で、
何というのでしょうか。

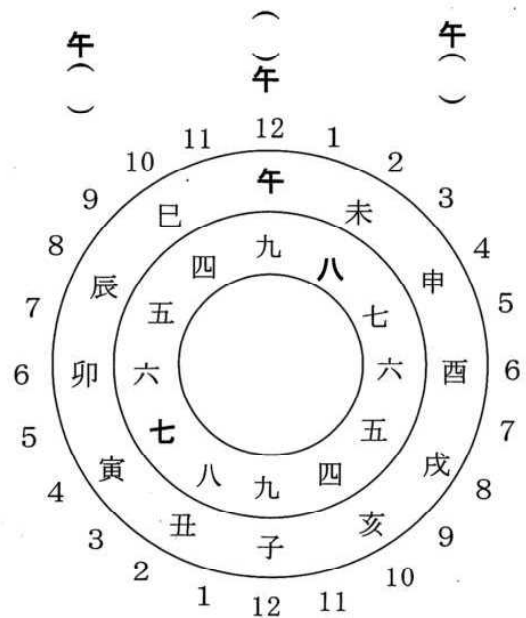
(漢字2文字です)

- ②「午」は、ある動物を表しています。
さて、何でしょうか。

今は1日を24に区切って、その1めもりを「1時間」で表しています。しかし、昔の人は、1日を12に区切っていました。「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」というよび方があります。これを十二支といいます。この十二支を使って1日の時間を表しました。

むかしは、お昼ごろの時刻を、「午の刻」とよんでいました「午の刻」のまん中を「正午」と言っていました。今でも使われていますよね。「午の刻」よりも前のことを「午前」、「午の刻」よりも後のことを「午後」といいます。算数でも勉強しますよ。

今の時刻と昔の時刻をくらべてみました。わかるかな？
()に入る漢字1字を書きましょう。



「とき」をつげるのには鐘をならしていましたが、昼でも夜でも、今の12時を「九つ(このつ)」とよんでいました。そこから「いっとき」(2時間ぐらい)ごとにひとつずつならず回数をへらしていきました。今の3時ごろは、「八つ(やつ)」です。うん??今でも使われている言葉がありますよ。わかりましたか？

そう、3時ごろに食べるおかしのことです。「おやつ」といいますよね。これは、「お八つ」からきた言葉です。みなさんが使っている言葉の中にもむかしから使われているものがありますよ。

